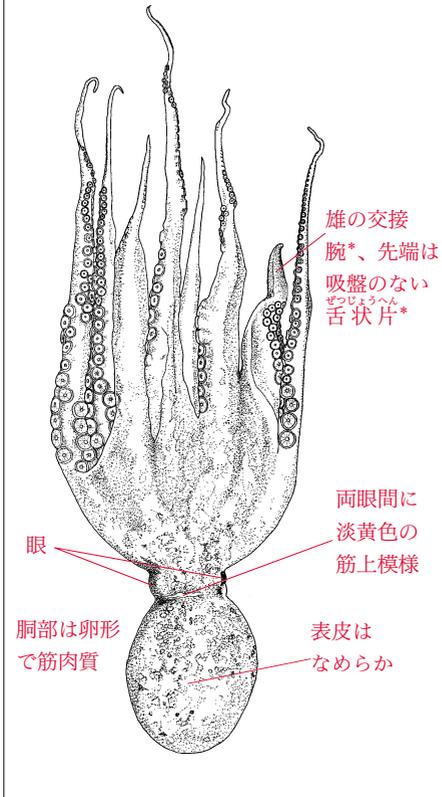


八腕形目 Octopoda
マダコ科 Octopodidae



86. ヤナギダコ

*Octopus (Paroctopus)
conispadiceus* (Sasaki)

図版34

英名 chestnut octopus

ベスチャヌイ オシミノグ
露名 песчаный осьминог

地方名(北海道) ギンダコ、
コダコ、ドロダコ、
ポングコ

漢字 やなぎだこ
柳蛸

【形態】 外套膜* (胴部) は球形に近い卵形で筋肉質。皮膚はなめらかである。眼の上部に肉質の突起がある。腕は8本で雄ではこのうち1本が交接腕*に変化する。腕は太く、それぞれの長さは交接腕を除きほぼ同じで、胴の長さの約3倍。腕の吸盤は2列に並び、腕

1本に雄で140~160個、雌で180~190個。交接腕の有無で雌雄が分かる。交接腕はほかの腕よりも短く、先端寄りは吸盤がなく舌状片*が並び、その部分の長さは腕全体の約1割である。漏斗*はきわめて短く、内面の漏斗器*にはV字が2つ並んだような模様がある。鰓葉*数は20~24である。

体色は橙黄色で黄色の小さな斑点が散らばる。両眼の間に筋状に走る淡黄色の模様は体重数gの稚ダコにもみられ、模様のないミズダコとの識別点となる。

北海道周辺ではミズダコと混獲*されることが多い。これら2種*を見分けるには、体色、眼の間や漏斗器の模様、皮膚の状態を観察して判断する。海中から引き上げたヤナギダコの皮膚は、刺激を加えると張った状態になる。

【生態】 主に北海道および本州北部、サハリン、千島列島南部周辺の海域に分布。北海道周辺海域での生息水深は主に30~600m。夏は深い所、冬は浅



産み付けられたヤナギダコの卵

い所へと季節的に移動する。北海道東部の白糠町沖の場合、稚ダコは7月に水深30mぐらいの浅みに分布し、カイメン*や巻き貝、二枚貝の貝殻に隠れていて、成長すると沖合の水深100mより深い砂泥底へ移動する。

体重2.5kgを超えるころから、雌では生殖巣が急激に発達し始め、雄では精莖*が白くなり、雌雄ともに体重3kg以上で性成熟*し、交接*が可能になると推定されている。

秋に水深100m前後の砂泥地帯で交接し、雌の体内に精子が貯えられる。繁殖活動は雌雄とも一生に1回とされ、交接後の雄は沖合に移動して寿命を迎える。雌は交接した翌年の春に産卵すると思われる。

産卵数*は1,000粒前後。マダコ*Octopus vulgaris*やミズダコのように「海^{かい} 藤花」と呼ばれる房状の卵塊*を作らずに、1粒づつ岩などの基物に産み付ける。卵は^だ楕円形で長径約15mm、短径約6mm、重さ約0.3g。長さ8mmほどの柄で基物に付着する。発生が進むにつれて大きさ重量ともに増加し、ふ化直前には長径約20mm、重さ約0.9gになる。飼育実験では水温2～17°Cでふ化までに約10カ月を要し、その積算水温*は約2,500°C・日。

ふ化直後の幼生*は全長*30mm、体重約0.6gで、すぐに底生生活を始める。数カ月間の浮遊生活を送るミズダコの幼生に比べて、ヤナギダコの幼生は腕が長く、腕1本にある吸盤も60個前後と多いなど、底生生活に適している。最大7kgくらいまで成長するが、年齢と成長との関係や寿命についてはよく分かっていない。

稚ダコは海底のデトリタス*や小動物を餌にしていると考えられている。成長すると甲殻類、貝類、魚類を捕食する。